



成績アップ、勉強法はこれ

先月号に続き、今回は国語・理科・社会の勉強法についてお話しします。

■国語

①国語のテストで高得点の学生は、漢字を知っています。
②長文を読んでいるとき、「いつも何を言おうとしているんだろう」と考えながら読んでいます。

漢字が読めなければ文の意味は分かりません。意味が分からなければ問題に答えることは不可能です。では、どうすればよいのか。漢字力をつけたいのです。どうやるか。



最初にやることは、漢字のテキストで知らない漢字を「一気に」10個読めるように、字を見て読みを口に出して言うことです。
「この注意は」書きのよう「しよう」と思わなくてもいいです。読めるようになったら次は丁寧に、正確に、読みを思い浮かべながら覚えるまで書くのです。



読解問題は答えの理由探しポイントがポイントです。まずは本文の初めから丁寧に読む。そして、傍線部や空欄などにぶつかったらその問題を解こうという気持ちで深く考えてください。答えは必ず本文中にありますから、設問と関連する部分に傍線を引くなどして理解を深めていきます。解くときは、「こう書いてあるから」のように明確な理由を見つけることが大事です。

古典は英語と同じ。

古語の暗記が不可欠。

古語を知らなかったら現代語訳はできません。現代語訳ができればテストで点をとれます。

■理科・社会

言わずと知れた暗記の徹底が力を握ります。英単語や数学の公式同様、即答できるまで完全に覚えましょう。

次に、暗記した分野がどう出され、身に付いているか確認するために問題演習します。

このとき解答解説を開いて学習するとわかりやすいです。その意義は説明しているのので、今日は省略します。

■全科共通

「暗記していてもこれからの試験は点を取れない」と話す教員や塾講師がいますが、その考えはほとんどの学生に当てはまりません。

その理由はいつも話しています。確認したい場合は担当先生まで。次に、問題の演習では日付と「できた」「まだ不安」「やり直さないとダメ」のように印をつけてください。

不安やできないものは解説を読んで理解し、できなかつた理由を探り、暗記不足であれば暗記し直して、△や×の問題は翌日以降も繰り返し演習。

できないものをできるようにすること、成績は上がりません。細かい事は担当の先生の指示に従ってください。

ハッピー・ハロウィン♪

子供たちが楽しむ10月の祭りと言ったらハロウィン！毎年31日に行われる、古代ケルト人が起源と考えられているお祭りです。



教室を飾り付け、松進はちょっと早めのハロウィン・ウィーク、先生たちがそれぞれ自慢の衣装をして授業をしました。

そんな先生たちを見て、「わあ〜ビックリした！」「先生、似合ってる〜」などリアクションは様々。

いざ授業となると、仮装はしていてもいつも通り真剣な先生たち。でも笑顔いっぱい。子供たちにとっても先生たちにとっても、楽しいステキな一週間になりました。



自身を見つめ直す機会を

10月末に第3回実力テストと中学3年生を対象とした三者面接を行います。

テストでは、今の自分の実力や何が足りていないのかが分かります。

松進は点数アップ法を知り尽くした学習塾ですから、松進の指導を実行すれば必ず点はアップします。

中3の三者面接では、近づく入試に向け、現在までの成績推移をもとにして、進路決定の参考となる様々な話をします。



時間は有限です。入試まで一日一日を大切に努力を重ねていきましょう。

松進のしえんしえ

先生たちの会議が始まる前、三沢先生と三松先生が、生徒の中で流行っている言葉について話しています。

「ワタクシ、知識のかたまりの三松って言われて長いですけど、最近の子どもたちが使う言葉がわからなくて...」

「へえ〜そうなんですか。いや〜流行の最先端を行く三沢が教えてあげますよ。ウウウウ」

「え？ダイエットに失敗した三沢先生が流行に敏感だったなんて知らなんだ。ところでそのシャツ、しまむらですよ」

「ブランドにこだわらないですよ」と胸を張る三沢先生。

「そんなことはどうでもいいので、今どきの子たちの言葉をお教えてあげます」頼まれもしないのにトヤ顔で話し始める三沢先生。

「そうだな〜、これ知ってます？オシ」

「オシ：??? 雄(おす)のこと？」
「方言の宝庫、秋田出身の藤河先生だって雄をオシなんて言いませんよ。こまるな〜」

三松先生、すでにくさいウ〇〇のにおいをかいだ犬のような顔です。

「ブフォ〜、知らないんです？」と偉そうな顔の三沢先生。

「わかった！挨拶だな。オッシー！」
「あいさつで、オッシーなんて言います？普通。そんなふうには挨拶されたら、赤面して道路の土を掘って隠れますね。挨拶はオッスです」



「え〜！何だろう、オシ...?」

「コホン！では説明します。オシは推薦する意味の『推す』で、他の人に勧めたいほど気に入っている人や物を意味する表現なんです。例えばアイドルの中で誰が好きとか」

「ほ〜ん...」



三松先生の目は黒「コマ」状態。目が点。

「ほかにも『ぴえん超えてはおん』というのがある...」

「パオ〜ン！みなさん、こんにちわん(ごは〜ん)そこへやってきた『歩くタジャリ辞典』この〇槻先生。」

「普通に『こんにちわ』でいいですけど」

「そろそろ会議かな。おまたせロリ〜」

「普通に『おまたせ〜』って言葉なくなっていますね」

「くだらんシャシを言っておめんなシャシ」

一人で笑い、ウケるまでシャシを言いきる〇槻先生。

真剣な会議前のどかな松進の「コマ」でした。